

# マダイ種苗を放流

## 三浦市の小学生が体験会

### 小網代パール海育隊

【三崎】神奈川県三浦市の小網代パール海育隊

イ稚魚(体長約7センチ)を放流した。

(出口浩代表理事)は13日、小網代湾の岸壁で市内5校の小学生161人が参加して「マダイ種苗放流体験会」を行った。児童らは合計2500尾の

同協会の今井利為事務は、小網代の干潟のアマモが植食性魚類であるアイゴの食害でなくなり、幼魚の成育の場を失う「海の砂漠化」を説明。

マダイ種苗を放流した。放流会は午前と午後の2回に分けて行われ、午

人間の手で育てた種苗の放流を行っていることを紹介した。

前は三浦市立三崎小24人、岬陽小19人、剣崎小13人、午後は名向小54人、旭小51人がそれぞれ参加した。神奈川県栽培漁業協会が飼育していたマダ

種苗は6月上旬にふ化させ陸上で約50日飼育し約20センチに育ったあと海のイケスに移し育ててきた。「1年で15センチ、3年で25センチ以上に育ち、漁業者や遊漁者が釣り、食べられるようになる」と説明し、「大きく育って帰ってきて、と声を掛けて放流してください」と話した。

小さなバケツに入った数尾の稚魚を手にした児童たちは、「大きくなって」と声を掛けながら放流台を使い繰り返し放流した。

「大きくなって」と声を掛け放流する児童

同海育隊は、小網代湾が日本の真珠養殖の発祥地であることを知ってもらうと、2015年5月に設立。毎年、種苗放流体験会を実施している。

